



## 庄野真代さん

1954年（昭和29）大阪生まれ。  
1975年ヤマハ「フォーク音楽祭」出場時、スカウトによりメジャーデビュー。歌手・俳優。2年後、世界を巡ったことをきっかけに様々な「ボランティア」活動を開始。2000年杉並区開催「わが町クリーン大作戦」のイメージソング「青春のかけら」を作成。  
2004年法政大学「人間環境学部」卒。  
2006年早稲田大学大学院「アジア太平洋研究科国際関係学科」卒。  
2006年に設立した特定非営利活動法人（NPO）『国境なき楽団』代表を務める。

### たまたま住んだ杉並の魅力

杉並区は京王線沿線に馴染みがあったのと、仕事で都心に出るの便利ってことが理由で、昭和63年から、もう22～3年住んでいます。杉並に来て「すごい良い環境のところに来たなあ、緑や畑がたくさんある」ってびっくりしましたね。果樹園とか、今住んでるところの近くも区民農園です。あと、塚山公園なんかにもよく行きました。古墳があったりするんですよ。神田川も桜のシーズンは凄く綺麗です。神田川では、もう、30人前くらいの刺身になりそうな大きな鯉をたくさん見ます（笑）。いつも餌をあげてる人が2～3人居て、ね。駅までの道の途中、そんな景色が見られることは楽しいです。



### NPO 法人設立のきっかけは杉並から

杉並での思い出と言えば、母が、荻窪の衛生病院で亡くなってましてね。あの坂道を「1秒でも早く着かなきゃ。」って思いながら登ったことや、その時の風景とかの印象は結構強く残ってますね。その時、看護婦さんが、「患者さんたちの為にコンサートを開いてくれないか？」って言うてくれて。当時、私は大学生もやっていて仕事と看病もあって、本当に余裕が無くって引き受けられなかったんですけど。そしたら、次の年に通っていた大学で『ボランティアのプロジェクトを考えよう』っていうテーマがあって、そのことを思い出してはっとして「ああ、足を運ばない方の為にコンサートを配達するプロジェクトを作ろう。」って思ったんです。そのことが、NPOを作るきっかけになって、それが、現在の『TUBASA』(\*)という活動になったんです。だから、「せっかく杉並に住んでるんだから」杉並でもたくさん活動してます（笑）。

※『国境なき楽団』の活動の一つ

### 『浜田山〜ず♪』結成

浜田山は歩いて行ける距離なので、その近所に住んでいるギタリストとベーシストと3人で『浜田山〜ず』というバンドを作りました。浜田山界限でもっと有名になる筈だったんですけど、ちょっとだけで…（笑）。浜田山は、せっかくアーティストとか色んなことが出来る人がたくさん住んでいるので、もっと、『まちおこし』っていうか、皆で手を繋いで、っていうか、もっと、連携すれば良いのにな、と思います。そう言えば、浜田山〜ずを始めた頃に、杉並区の『我が街クリーン大作戦』のキャンペーンソングの依頼をいただいて『青春のかけら』って曲を書きました。その時も自分で自分の街を歩いてみて思った事を詩にしよう、って思いました。やっぱり、人間って自分の住まいからスタートしている訳ですから、生活する場所が一番じゃないですか。



としては音楽)をやっていく。皆に助けられているからこそ実現出来る。」と常に自然体。

現在、障害を持った方への音楽セラピー、コンサートなど、その活躍の場は広がり続けている。

世界共通語である音楽は人間の魂の奥底からあふれ出した表現であり国境も無い。『地球市民』が目標と語る庄野真代さんや、それをサポートするメンバーの姿勢に、私は、未来の地球が音楽に溢れ輝いている情景をイメージ出来た。地球で息をする一人として、感謝。

—取材・執筆：荒倉 朋子、撮影：嘉屋本暁（パセリプロモーション）

取材場所：国境なき楽団の運営するコミュニティカフェ「Com.Cafe 音倉」（取材・2009年9月3日 掲載・2009年10月15日）—

### 子育てで大変だった頃・地域への感謝

二人の子どもは杉並で育てました。そうそう、あの頃に『すぎ丸』が走ってたら良かったのになあ、と思いますね。いつも、下高井戸から浜田山に行くのが大変でしたから（笑）。

下の子の保育園の送り迎えとか、もう、仕事が入って、どうにもこうにも、って時には、助けてくれる方がご近所にいて。あの頃はお迎えの時間との戦いでしたから。今考えると、「ああ、なんとかのりきったじゃない。」と思えるんですけど、その真っ只中、仕事で帰りが遅いことが続く時には、「ああ、もうどうしよう。困った。誰に頼めるのだろうか？」と、綱渡りみたいな毎日で、必死でしたね。御近所や周りの方には、時には子どもの遠足のお弁当まで面倒みていただいたり...本当にお世話になりました。

取材を終えて

「言葉は嘘をつけるが、音楽には嘘が無い。だから、想いを吐き出せたり、癒すことが出来る。」と語る庄野さんのボランティアへの姿勢は、「自分に出来ること（＝自分に